

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

イネいもち病におけるストロビルリン系殺菌剤（QoI剤）耐性菌の発生
（技術情報第11号）について（送付）

このことについて、本年度県内において、ストロビルリン系殺菌剤（QoI剤）に対し感受性が低下したイネいもち病菌の発生を確認し、対策をまとめましたので、防除指導の参考としてご活用下さい。

記

1 発生状況

- (1) 平成25年7月、QoI剤を含有する育苗箱処理剤を使用した水稻でいもち病が激しく発病したほ場を確認した。
- (2) 上記のほ場から採取したいもち病菌について、九州沖縄農業研究センターが遺伝子診断（PCR-RFLP）と培地検定を行った結果、QoI剤耐性菌と判定された。

2 防除対策

- (1) 耐性菌の発生リスクを低減させるため、QoI剤の使用は育苗期から本田期を通じて年1回とし、QoI剤を含有する育苗箱処理剤を使用したほ場では、出穂期前後の穂いもち防除にQoI剤を使用しない（下表参照）。
- (2) 種子更新にとまなう耐性菌のまん延を防ぐため、採種圃場およびその周辺地域でQoI剤を使用しない。
- (3) QoI剤を使用したほ場で防除効果の低下が疑われる場合は、下表を参考に他系統薬剤を選び追加防除を行うとともに、病害虫防除所または関係指導機関に連絡する。

表 いもち病対象の薬剤の系統・作用性分類（H25年度熊本県病害虫防除指針P.22の表を加筆修正）

QoI剤含有の有無	系統・作用性分類	成分	農薬名の例
あり	QoI剤（ストロビルリン系）	○オリサストロビン	嵐
		アゾキシストロビン	アミスター
		○メミノストロビン	イモチエース、イモチミン、オリザトップ、オリブライト
	QoI剤・抵抗性誘導	○オリサストロビン・プロベナゾール	オリゼメート嵐
なし	メラニン生合成阻害（MBI-R）	○トリシクラゾール	パワーリード、ビーム、フルサポート
		○ピロキロン	コラトップ
		○フサライド	ラブサイド
	メラニン生合成阻害（MBI-D）	カルプロパミド	ウイン
		ジクロシメット	デラウス
		○フェノキサニル	アチーブ
	抵抗性誘導	○プロベナゾール	Dr. オリゼ、オリゼメート、ジャッジ、ビルダー
		○チアニジル	ブイゲット、アブライ、コメホープ
		○イソチアニル	ルーチン、ツインターボ、スタウト
	抗生物質	○カスガマイシン	カスミン
	その他	○イソプロチオラン	フジワン
	メラニン生合成阻害・その他	○ピロキロン・イソプロチオラン	ピカピカ
○トリシクラゾール・フェリムゾン		ノンプラス	
メラニン生合成阻害・抵抗性誘導	○ジクロシメット・チアニジル	プロバック	
その他・メラニン生合成阻害	○フェリムゾン・フサライド	ブラシン	

○印はH25年度熊本県病害虫防除指針（いもち病）に採用されている薬剤を示す

問い合わせ先
熊本県病害虫防除所 山口
（生産環境研究所）
TEL: 096-248-6490
FAX: 096-248-6493